

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： マルチモーダルな場の認識に基づくセミナー・会議の多層的支援環境
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名 (研究機関名・職名は研究参加期間終了時点):

研究代表者

河原 達也 (京都大学学術情報メディアセンター 教授)

主たる共同研究者

猿渡 洋 (東京大学大学院情報理工学系研究科 教授)

3. 事後評価結果

○総合評価コメント:

本研究では、音声コミュニケーションのマルチモーダルな観点での分析・モデル化を基盤として、セミナー・ポスター発表及び会議を対象として、リアルタイムに支援したり、効果的なアーカイブ化を行ったりするための情報環境を構築することを目標としている。複数の人間による知的活動のマルチモーダルなインタラクションを長時間収録した音声・映像に対して、人間の直感に基づいて有用箇所を効率的に視覚化・提示できる人間調和型情報環境の実現を目指し、実験環境の整備とコーパス収集分析、マルチモーダル認識及び情報支援に関する研究開発、セミナー・会議の支援システムの構築と運用の3つの柱を軸とした研究への取り組みが行われた。

衆議院での会議録作成に関しては、2011年度からすべての本会議・委員会を対象とした運用が行われるようになり、全会議の平均で90%を上回る認識精度が得られていること、講演の字幕付与のための音声認識システムに関しては、京都大学のOCW (OpenCourseWare) で実際の字幕付与に用いられ、収録条件のよい講演に対して80%程度の認識率が得られている点は評価できる。一方、スマートポスターボードを対象としたマルチモーダル情報処理技術については、本研究がセミナー・会議の多層的支援にどう貢献したかが十分明確にされていないのが残念である。今後は、本研究成果をさらに発展させて人間調和型情報技術にふさわしいレベルまで高めるとともに、特許出願など産業界に有用な形にまとめることを期待する。